

# 産業建設

## 所管事務調査

10/20 任期中の調査テーマについて

11/20 11/28 今冬のカキ出荷における卵巣肥大症の影響について

## 請願審査

12/9 請願第5号 「陸前高田市景観条例」の見直しについて

### 所管事務調査

産業建設常任委員会は、今後2年間の調査テーマとして「産業と観光の振興について」を掲げています。そこで、11月20日、市役所で「今冬のカキ出荷における卵巣肥大症の影響について」を調査しました。

本委員会は、これまで海水温の上昇などに伴う水産業への被害や対策について調査してきました。今回は、今冬のカキ出荷が本格化するのを前に、市水産課の石川浩課長と中川健司係長から説明を受け、質疑を行いました。

養殖力キのへい死について、大船渡水産振興センターが取りまとめた広田・小友・米崎・気仙各町の漁業者からの聞き取り調査を基に議論。高水温の年に考えられる対策として、生殖能力を抑えた三

倍体力キの導入や2年での出荷、温湯駆除回避などの説明を受けました。今後は、生産現場へ足を運び、今冬 の状況も踏まえて引き続き調査をしていくことを確認しました。

### 請願審査

請願第5号「陸前高田市景観条例」の見直しについてを12月9日に市役所で審査しました。

平成30年に制定された景観条例について、ソーラーシェアリング事業への支障や社会情勢の変化などを理由に全面的見直しを求める内容でした。

審査では、請願者からの趣旨説明と紹介議員からの補足説明の後、市担当課と質疑を交わしました。

委員からは、請願内容が当局の方針と一致すること、事業が景観審議会承認



カキの現状について説明を受ける

後に実施されており、請願者の危惧には当たらないことなどに意見が分かれたため、起立採決の結果、賛成少数で不採択となりました。（4ページ参照）

委員長	菅野秀一郎
副委員長	伊勢純
	木村聡
	大和田加代子
	中野貴徳
	大坂俊

## 傍聴者の声



一般質問を傍聴した感想を伺いました。



いちー さん 菊池 栄一 さん 高田町在住 79才

### ●傍聴してどんなことを感じましたか？

令和5年9月の市議選から2年余りが経過しました。また、東日本大震災から15年になろうとしています。7年度で震災復興事業も終わる中、今後は中身のある市政に肉付けが必要となります。

急速に進む「少子高齢化」は本市だけの問題ではなく、大きな自治体も同様です。いずれ、時間が経てば解決するという問題ではなく、本市独自の特色ある市政が望まれ、市民を交えた議会での議論を期待します。

であってほしいですし、高齢者が参加しやすい催しを増やしてもらいたい。

そのほか、本市の七夕祭りは言うまでもありませんが、三陸花火大会も全国的に知れ渡っていました。ところが、昨年は花火大会が運営の不幸で中止になったことは残念でなりません。何とか再開できないものかと思っています。

気候も温暖で、海、山、川の自然豊かな宝が埋もれないよう、元気なまちを目指してほしい。何をすることも「先立つもの」がないということでは前進できません。ヤングパワーでの地域創生を願います。

### ●傍聴して気づいたことは？

傍聴席で、議会での質疑応答が聞き取りにくい場合、座席前のイヤホン差し込み口が利用できます。持参したイヤホンを通してきれいに聞くことができました。

## 沿岸広域局大船渡各センター所長等との情報交換会

本市議会は10月31日、市役所で県沿岸広域振興局大船渡各センター所長等と情報交換会を行いました。県側からは本年度の施策推進方針の内容が示され、議員と質疑を交わしました。

振興局からは、沖野智章副局長をはじめ、各センター所長ら計9人が参加しました。県から本年度の気仙管内の主要施策のほか、いわて県民計画の重要課題解決に向け、人口減少対策や産業支援など、多岐にわたる内容の説明がありました。

具体的には、漁業面では「いわて三陸海洋環境変化対応型養殖推進事業」を新規に展開。高水温に対応したホタテ養殖モデルのほか、生殖機能を抑えた三倍体マガキを利用した養殖モデルを構築する方向性が示されました。

また、クマ対策としては、電気柵やセンサーカメラの市町村貸与、狩猟免許更新試験

や、狩猟者登録の際の事故防止研修会の開催などを予算化しているとのことでした。

その後の意見交換は活発な質疑が行われ、地域が抱える課題や今後の協力体制について議員から率直な声が上がりました。

その中で、観光資源としての価値向上が期待される「みちのく潮風トレイル」の環境整備、高田松原の植栽や維持管理に向けた支援などが話題になるなど、県と市が連携して取り組むべき方向性を共有する有意義な場となりました。



沖野副局長から説明を受ける